

小浜城(指定無)(鳥羽市小浜町字城山)(鳥羽彩朝楽, 八幡神社)

小浜町字城山と呼ばれる地域で、小浜漁港の北の岬にある。天文年間に小浜真宗が城砦を構え、小浜民部景隆に至る5世の間住んだゆかりの地であるが、現在はホテルが建てられている。小浜民部は志摩13地頭の一人であったが、鳥羽の地を離れてから、武田信玄に仕え、武田水軍として活躍されたことが知られている。京都お茶の水図書館に保存されている成簀堂文庫の「小浜文書」は戦国末を知る貴重な史料としてよく知られている。

鳥羽市観光情報サイトによる

小浜城

おはまじょう

城主；小浜将監真宗（初代）、小浜民部景隆（五代）

築城時期；天文年間(1532-1555)

住所；三重県鳥羽市小浜町

標高；34m

遺構；曲輪

経緯；天文年間に小浜真宗が城砦を構え、戦国時代の志摩の先駆けとして重要な位置を占めていたと思われる。

小浜民部景隆（5代）は志摩十三地頭の一人で北畠家に属し安宅船を持ち海賊衆を束ねる軍勢であったが、永禄年間(1558-1570)、九鬼嘉隆と鳥羽主水、安楽島左門などが相はかり浦城、小浜城を真っ先に攻略したと「志摩軍記」は記している。景隆は海上を敗走して三河国に逃れたという。

遺構；現地はホテルが建ち遺構としては認められないが、西端の神社の部分が一段と高く城の遺構を思わせる、と記す記述物が多い。

感想；神社の部分は規模は小さいが主郭、帯郭、搦め手など山城の体裁は整っている。海に向かって標高が下がっていくとして現ホテルの位置が二の郭、三の郭と想定しても不自然ではない。やはり神社の部分は城の一部と考えてよいと思う。

三重県の不明の方のブログより勝手に転載



浜からの遠望



帯郭



主郭